町の太公望

○「暑さ寒さも彼岸まで」遠山の雪もいつしか消えて越後平野は太公望を招く。五ノ上、大原貝柄と釣場を求めて東奔西走、川邊に腰を下して糸を垂れ、やはら煙草を取出し、川面に浮ぶウキの動きを見守る。やがてウキが動き出す。波紋が五つ、六つ――。手に竿を構へる。呼吸を合せて糸が水を切る。大きな手応へ、銀鱗が跳れる。このスリルは太公望ならでは味へぬものである。

○彼岸から四月の下旬までは池がよい、又五ケ村下江も鮒が早く集る。こゝは番屋・熊谷から横戸まで、漆山の大通川と共に奔先は樂める。五ケ村下江は水の多い時は上に、少い時は下に陣取り、竿は腰の弱い二間から二間半位のものが適する。四月末から五月一杯は鮒の産卵期所謂乗込みの時期となるから、鮒は細堀に入る。この頃になれば子供でも釣れるし、恰好な穴さへ見付けたら日に一貫匁位の獲物があることもある。

○町の太公望連――。先ず五十嵐釣具店主久松氏を筆頭に「白浮会」の面々。同向院の森山氏、五十嵐自転車店主。先日不慮の死を遂げられた吉岡氏、耕地整理組合の五十嵐氏等。この中五十嵐久松氏は二年連続のトップとか。この他吉川・笹川・小山三氏等の率ひる役場チーム。山崎指場・袖山・小柴四氏から組織された理研チームは役場チームの好敵手であり、山崎土管や、耕地整理組合、寺澤鐵工所等同好者のグループが夫々チームを作つて、鮒の命を縮めてゐる。

○獲物は昨年は不漁の由であるが、五十嵐久松氏は二十数回の出陣で延十貫匁余釣られたそうな。又昨年尺鮒を釣つた実績は理研の山崎氏が十一月尺六分を新川で五十嵐氏が小平潟で一月一日尺三分を、関根省作氏が同じく尺二分を、一日で尺鮒三匹も上げた、太公望最良の日。

○雲雀囀る春の野、吸い目指しを背に、新鮮な空気を胸一杯に吸ひ、釣の醍醐味を求め、夕餉の卓を賑はせ、手柄話を語り乍ら団欒の一時を過す。公民館の春秋二回開催する大会には百五十名余参加されたと聞く、この最も健康的な娯楽を我々はもつと利用しやう。

――春風春水一時に來る――

君想ふ
深き心はわきいづる
清き泉の
たへる日のなく

さびしさを
歌よみ春きてなぐさめむ
心にこゝろを
問ひこたひつゝ

如何にせむ
君が心の愚かさを
事ある度に
強く打ちても

苦しさも
さびしき事もつれぐ\に
しろしおかなむ
君がひとり冒

織田ヤイ(秋好)

十五時

長田和郎

――昔話があるやうに、現在も未來に於て昔話として語られる――

「十年一昔が……早いものですね。」と私と卓を狭んで腰を下した老紳士は感慨深げに呟き、煙草をくゆらす。「もう幾昔位前になりますか」と窓外に目を転じ、静かに語り出した。向ふの空高くビルが聳えてゐる。舗装された道路にはグリーンやピンクの高級カーが繁く行き交ふ。こゝは街角のパリー風の喫茶店の二階。

「何も彼もすつかり變つてしまひましたよ。私の若い頃は……柳木と云ふ前世紀の遺物的なものがありました。あなたには御想像出來ますかな。今は街路樹の植ゑられた立派な歩道になつてゐますが……。商店街だつてショウウインドーで美しく飾り立て、ショップガールが愛想よく迎へてくれますが、昔はひつそりとして、年中閑古鳥が泣いてゐるやうな淋しさだつたものです。こんな華かさは誰にでも考へられなかつたでせう。急激な町の発展振りや、變化のすざましさを思ふと……あゝ私もすつかり昔の人になつてしまつたんだな……と云ふ一抹の淋しさに襲はれます。しかし何と云つても女の人の服裝の急速な進歩……まあ進歩と云ふのですか。兎に角目ざましいものがあります。今じや颯爽として服裝がモーションで美しく躍動してゐますが、昔は見たくとも見られなかつたものです。服だけが立派でも、バタリく\と全く姿勢が悪かつたのだから……まあお服が泣かされてゐたとでも申しますか……。あの頃は自分の容姿なんかどうであらうと構はない。スタイル・ブックに紹介されたモードであれば何でも眞似て、これが最も洗練されたスタイルなんですよと云はんばかり。見せられた方は、溜息と幻滅を吐いたり、感じさせられたものです。それに色彩……色調と云つた方が適確かもしれません。美的表現に無関心過ぎたやうです。その上年にポイントをおいて派手すぎるとか、地味だから嫌だと、年令に拘泥し過ぎて美しさを殺してゐました。一つく\をウインドウに飾つたら素適だらうと思はれた服でも、他のものと一緒に身につけたとき……尤も私は着こなしたと云ひたいのだけど……色彩の配合がチグハグだつたから融合の美とか、対照からくる美しさなんてとてもとても……。

「今でこそスポーテーとドレッシーの區別を辨へてゐますが、昔はそんなことに頓着しなんで今だつたらとんだ恥曝しなんでせうがれ……。線は知性、色彩は感情……と云ふ言葉。今ぢや、昔がこれをマスターしてゐますが、昔は知つてゐても消化出來なかつたものです……。「要するにアクセサリーにしろスタイルにしろ、それによつて魅力を感じさせられることがなかつた。

云ひ換れば昔は個性を生かす方法を知らなかつたのですれ。……あの頃、美しいなあ！と印象づけられた女性が、果して幾人位あつたでせうか……。今は十の美しさを十五にし、二十にまでしてゐますが、あの頃は間じ十の美しさを、增すどころか八にし、五にしてゐました。と云ふことは先刻も一寸觸れましたが、スタイルブックの眞似だけで獨創力に欠けてゐたのですよ。しかし、毎年春秋二回開かれる町のデザイナー連盟のファッション・ショウによつて、洋裝に対する根本的な認識が昂まり、獨創力が発揮されて來ましたれ。そうそうファッション・ショウで思ひ出しましたが、今でこそ公園の森にそゝり立つてゐる公会堂で開催されてゐますが、あの頃薄汚いムシロの上に座らせられる觀覧席の小さな映画館でやつたものです。二三回もあつたでせうか。なかく\の盛況でしたが、識者間には相當不平があつたやうに記憶してゐます。こんな風にれ。ファッションだけを見せるのもよいけれども、余りレベルが高くないのだから、製図を示すとか、特長を話すとかして親切に数へてやるべきだ。と「今とは隔世の感が深いですよ。しかし昔だつて美しいなあ！と思つた女性に、二三廻り會つたこともありましたが、今はこの人達だつてすつかりオバアサンになられたことでせう……。あなたは倖せだ。こんなにも異性の美しくなつて來た時代に生れ合せて……。

「すつかりこんなつまらない話をしてゐる中に日が暮れてしまつた。そろく\出ますか――」

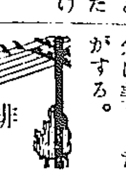
町はいつしか夕靄に包まれ、デパートのネオンは明滅し始める。私は雑沓に揉まれ乍ら、ヘッド・ライトの交錯する町へ出た。青春を讃へるやうな「碧きドナウ」のメロディが流れてゐる。何だか私の目に映る女性が急に美しくなつたやうな氣がする。

◁懸　賞▷
『私はなんでしょう』

1. 私は白根町とは切つても切れない仲にあります
2. 私は町のどこの家庭の台所とも仲良しです
3. 私は大体鑛物の加工品で、できています
4. 私はいつでも町全体を眺めています
5. 大人の人も子供たちもよく私を画に畫くようです

さて、皆さん　私はなんでしょう。

答はハガキで役場内公民館係へ
〆切　四月三十日
発表　次号
正解者五名に賞品進呈。
但し正解多数の場合はクジビキ。



俳句

外川滌夫

桑苗の芽のはなやぎに朝の虹
萌えそめし芍藥の芽や竹の垣
冬の月枯木の網をはなれけり

川柳

吉川醉木地

溜涙見つけ叱つたことを悔い
マ、と呼ぶお隣の子の服は派手
春の風他人の戀を見て歸り

治安の任にあたる
警察署の陣容

一万町民の治安の任にあたる白根町警察署の陣容は左の通りであり、町民一般の協力と理解の下に、民衆警察の実を着々とあげてゐる。

警部	木村勝次
巡査部長	波塚猛正
同	渡邊要作
同	樺澤進
巡査	佐藤久市
同	藤田喜四郎
同	青木幸男
同	岩城信明
同	涌井末一
同	間島一雄
同	山際忠雄
[illegible]	高野辰雄
[illegible]	大橋規三男
書記	春日さだ子
同	齋藤弘美
同	杉澤惠美子

感想「コトバ」について

言海居士

「美しいコトバ」の持主は、その人柄がしのばれてゆかしいものである。

世の中には、顔や姿の美しさを心にかける人は多いのに、自分のコトバを美しく育てようとする人の、案外に少いのは、どうしたことであろう。

言論の自由という。何をいつてもよくなつた世の中のきたいまゝ思いつきをただ間に合わせのコトバに載せてしやべり廻つてそれでいゝのだろうか。

會議の席などで、自分の野生のまゝのコトバで人に誤解させ自分も誤解して、話が通じあつたと思つている滑稽な場面を、また、激怒している場面、いたるところに見る。「美しいコトバ」とは、声がキレイだとか、お上品なコトバをつかうとか、そんなことではない。そんなことは末の末である。「美しいコトバ」とは、ピッタリしたコトバである。素直なコトバづかいである。

われく\人間は、毎日コトバをつかつて生活している。コトバは誰にもつかえるもので、うつかり、空気かなにかのようにありふれたものになつておりわれく\はコトバのことならなんでもわかつているように考えがちである。それは大へんなあやまりで、われわれは、自分のからだについてなんにも知らないように、それ以上にコトバについては知らないのである。

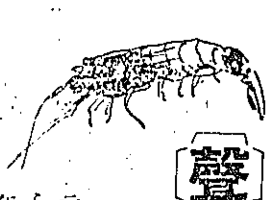
気の合つた友となら、一日話をしていても少しも倦きない。心に通う文学作品を、一日讀んでいても少しも疲れない。それはコトバが通うからである。コトバを身に吸い取つている時、われく\の魂は、磨かれ澄みわたる。

親子が、兄弟が、夫婦が戀人同志がコトバが通じあわない嘆きで、心を冷くしている光景を、われく\はよく目撃する。いや、その人たちはコトバが通じあわないとさえも感じない。そう感じる力さえもないのだ。

そうして、ただ、通じあわない結果出來た淵の両側に、立ちすくんで身を固くしているばかりである。こんな不幸が、またとあろうか。

コトバについて考えないことは、自分を不幸にし、人を不幸にする。この不幸は大きな不幸である。

本當にコトバを愛する人は、コトバについて、もつと考えなくてはいけない。わたしはそう思う。それが自分を愛し、人を愛し、人類を愛する本當の道であろうと考える。



聲　責任の自覺を

諏訪木河童

民主主義が云々されてから、早くも五年は去つた。

當白根町も、形だけは、一應民主化したと言いるかも知れないが、実際働き方に至つてはぜろに近い。

總べての團体に適應される事だが、何かを決める大時な集會でも、自分の權得だけを計算して出席せず、責任を果そうとしない。此んな者に限つて、一々文句をつけたがるようだ。民主主義を少しも解していない證據である。

權利の主張は、己の責任と義務を果さない者には與へられぬのが當然である。自分の權利を主張したいなら、先づ責任と義務を果すように心掛くべきだ。

人間は誰しも、樂をし遊びたいものだ。けれども社會はそうはいかない。やはり考へ、働き苦しまなければならない。

一部の者が一生懸命になつても、他方ではパチンコやダンスで遊び廻つている。其の為に、仕事がうまくゆかないのは當然である。働く時はみんなで働き、遊ぶ時は、みんなで遊ぶことになれば、其處に明朗さが涌いて來ることと必至と思う。

ダンスでも何でもやる事に対してとやかく言う筋はあり得ぬが、自分の務むべき事を務めようともせず、只甘たれる事のみに專念することは大いにつゝしむ可きでないだらうか。

他人のやつた事に対し、良からうが、悪からうが、一々けちをつけ悪ざまに言いたがる悪い癖が、白根もんの心から去らうとしない。他人を悪しざまに言う前に、先づ自己を反省して見る必要がある。先づ自己の悪い癖は一日も早く改める可く心掛け、他人の欠点は幾らでも取り上げるが、自分の欠点はなかく\解らない。（もつとも此れが解れば偉い人であらうが）そこでみんなが扶け合はなければ、満足のゆくようにならない事が知れる。民主主義下の行動は、一人や二人の者では何も出來ぬもので、未端に在る一人々々の活潑な行動に依つてこそ、初めて立派な行動が出來るのだ。責任の自覺に努めませう。

歩く事

あの日は
寒い日だつた
小雪まじりの風が
私のほゝを強く打つその中を
私は一人
土堤を歩いてゐた
何の目的もなく
流れる川の響は
或る時は
子守歌の如く
或る時は
私を叱咤怒るはげしい声の如く
そして又
激勵する如くに私の胸に
迫つて來る
歩く事……
それは私が生きる上に
私を慰めてくれる
そして
私をより深い思索の中に
みちびいてくれる
暖かな　貴い現実なのだ
冬の日の夜
私は冷たい風に打たれ乍ら
ゆつくりと……
唯歩いてゐた

織田ヤイ(秋好)

懸賞當選者発表(第三号)

一、応募者　五十一名
二、正解者　四十名
三、當選者氏名
　魚町第四　池田玉枝
　神屋　星野繁男
　一ノ町第四　淺見スミ
　左エ門小路　山宮シゲ
　四ノ町　稲垣光子
四、賞品は四月二十日迄に役場内公民館係よりお受取り下さい。

◎原稿募集

1. 感想、隨筆、小說、短文藝
　(イ)感想、隨筆、小說は千字内外
　(ロ)短歌、俳句、川柳三首三句以内
　(ハ)時は二十行内外
2. 町民の内、五百字内外
3. 原稿は原稿用紙種別毎に別紙
4. 締切　四月三十日
5. 宛先　白根町役場内公民館係